

NEWS LETTER



2024年12月発行 一般社団法人 日本口腔衛生学会
ニュースレター第14号

事務局 〒170-0003 東京都豊島区駒込1-43-9 (一財) 口腔保健協会内
TEL: 03-3947-8891 FAX: 03-3947-8341

E-mail: gakkai37@kokuhoken.or.jp HP: <http://www.kokuhoken.or.jp/jsdh/>

発行人 三宅達郎 編集 広報委員会



CONTENTS

- 第74回日本口腔衛生学会学術大会のご案内
- 韓国予防歯科学会での招待講演報告
- 地方会報告
- 新任教授紹介
- 若手会員紹介リレー⑦
- 大学／研究機関の教室紹介①
- 各種お知らせ
- 編集後記

第74回

日本口腔衛生学会学術大会のご案内

【大会長】小松崎 明 (日本歯科大学新潟生命歯学部衛生学講座)



この度、第74回日本口腔衛生学会学術大会が令和7(2025)年5月16日(金)～18日(日)の3日間にわたり朱鷺メッセ(新潟コンベンションセンター)で開催される運びとなり、私が大会長を仰せつかりました。伝統ある本学会の学術大会を開催させていただくことは、日本歯科大学新潟生命歯学部衛生学講座員一同にとって大変光栄なことであるとともに、その重責に身の引き締まる思いであります。

さて、本大会のテーマは「口腔衛生学の真価・深化・進化」としました。歯科界を含め保健医療の現場は、大きな変革期に置かれています。少子高齢化が進み、今後の人材不足は地域社会の維持に関わる死活的問題とされています。2019年からの新型コロナウイルス感染症パンデミックの影響は、今も社会に影を落としています。変わりゆく世界の中でも、私たちの追求する口腔衛生学の真価が問われ、より深い研究が求められ、保健医療の進化を必要とします。

本大会の開催で、ご参加の皆様が何かしらの成果を得られるように、さまざまな角度からプログラムの内容を考えてみました。特別講演には、多摩美術大学教授の伊集院清一先生をお招きし、「芸術と医学の融合を求めて」と題してご講演いただく予定です。また、教育講演として、厚生労働省医政局歯科保健課長の小嶺祐子先生には、歯科保健政策の今後についてを、また、本学会の認定制度運営委員会認定医・専門医・指導医認定部会長で、愛知学院大学教授の嶋崎義浩先生には、本学会の認定資格についてご講演をいただく予定です。その他、シンポジウム、学会賞受賞講演、国際講演、一般講演(口演、ポスター)、ランチョンセミナー等の企画を準備しております。現在、会員の皆様のご期待に応えるべく鋭意準備を進めております。

大会会場の朱鷺メッセは、日本最長である信濃川の河口に近い川岸に位置しています。隣接する万代島ビルの最上階には、日本海側で随一の高さを誇る展望室があり、日本海が一望でき、晴れた日には、今年7月にユネスコの世界文化遺産として登録されました佐渡島も見ることができます。

また、新潟は言わずと知れた日本一の米どころです。ご飯も日本酒も美味しいですし、海鮮もお勧めです。また、新潟市のソウルフードである、たれかつ、イタリアン、バスセンターのカレーは、会場から近くの万代シティで食べることができます。気になった方は是非検索してみてください。

自然豊かで美味しいものがたくさんある新潟で、皆様をお待ちしております。



2024年

韓国予防歯科学会での招待講演報告

福田英輝（国立保健医療科学院 統括研究官）



2024年10月26日（土曜日）ソウル大学歯科病院にて開催された韓国予防歯科学会（Korean Academy of Preventive Dentistry and Oral Health：KAPDOH）において講演を行った。本招待講演は、韓国予防歯科学会（KAPDOH）と日本口腔衛生学会との「学術交流に関する協定書」に基づいて実施されており、隔年ごとに両学会から講師派遣を行っている。

2024年5月に行われた第73回日本口腔衛生学会総会（盛岡市）のポスター会場において、日本口腔衛生学会国際交流委員会長の小川祐司新潟大学教授からお声掛けがあり、2024年韓国予防歯科学会学術大会の学術部会長である Hoiin Jung 先生（延世大学歯学部）のご紹介をいただいた。今回の韓国予防歯科学会で行う招待講演に関してお世話をいただけるとのことであった。

2024年韓国予防歯科学会開催直前までメールを通じて準備を進めていたが、韓国予防歯科学会ホームページは韓国語表記のみであり、正直、韓国予防歯科学会側の準備状況がよくわからず訪韓当日まで不安であった。しかしながら、金浦空港には、Hoiin Jung 先生と Chae-Hyun Lee 歯科衛生士の出迎えがあり、不安は杞憂であった。当日は、そのままホテルへと直行し、明日の講演に備えることとなった。

講演当日は、Chae-Hyun Lee 歯科衛生士の出迎えにてソウル歯科病院に向かった。すでに韓国予防歯科学会は始まっており、口演発表の途中であった。昼食休憩の後「Overview of Japan's New Dental Health Plan」と題して、2024年から開始された「歯科口腔保健の推進のための基本的事項（第二次）」について、歯科疾患実態調査等の最新の歯科口腔保健データを用いて、わが国の歯科口腔保健の現状と課題について説明を行うとともに、基本的事項（第二次）に定められた5つの基本的方針と17目標について説明を行った。講演の後、質疑応答がなされ、フロアから8020運動の成果とそれに変わる新たなキャンペーンの有無について、および歯科疾患実態調査で用いている歯周病の定義についての質問を受けた。

韓国予防歯科学会は、規模こそ小さかったが、口演発表のほか、ポスター発表も行われており、熱気を帯びた討議が交わされていた。発表者は、若手の歯科医師や歯科衛生士も多く、私からの質問には、明確、かつ流ちょうな英語で回答をいただいた。若手、とくに歯科衛生士の積極的な発表に対する姿勢には、日本口腔衛生学会も学ぶべきところが多いと感じた。

私ごとであるが、今回初めての韓国訪問であった。町並みや道行く人々は、言葉さえ交わさなければ日本と間違えるほどであり、とても親しみのある雰囲気を感じた。日本政府観光局の発表によると、日本と韓国とはお互いに最も行き来している国だそうである。今後も日韓の予防歯科学会での学術交流を通じて、ともに学び、歯科口腔保健に関する知見の共有が進められることを期待したい。



Deuk-Sang Ma 教授から感謝状をいただきました

令和6年度 地方会報告

1

北海道口腔保健学会総会・学術大会

大会長：福田敦史（いしかり kids デンタルプレイス）



令和6年11月10日（日）に北海道大学学術交流会館におきまして、第14回北海道口腔保健学会総会・学術大会が開催されました。本大会は例年10～11月に行われ、大会長は大学、行政、開業医、北海道歯科衛生士会が順次担当しております。今年度は開業医が担当でしたので、私が大会長を拝命することとなりました。今回の学術大会についてご報告させていただきます。

大会テーマは「子どもの口腔と全身の成長発育を支援する ～歯科+他職種の可能性を探る～」でした。新型コロナウイルス蔓延による長らくのマスク生活は、小児の口腔内環境の悪化だけでなく、姿勢の悪化や口呼吸の増加をもたらしたとされています。小児歯科専門医でもある私は、日々の外来診療に携わる中で歯科のみで解決を目指すのは中々難しいと感じることがしばしばあり、他職種との積極的な連携は必要不可欠ではないかと思いから、このような大会テーマを掲げさせていただきました。

特別講演として、柔道整復師の北川尚史（株式会社 TUNERS 代表）先生に「歯と健康の基盤・歯と姿勢がもたらす全身の影響」と題してご講演いただきました。98名の男子（小学4年生～中学3年生）を対象に、歯科医師がう蝕、歯列不正・不正咬合、口呼吸（口唇閉鎖不全）、低位舌の有無を診査結果と講師が現在開発中の姿勢アプリを用いて、頭部、肩部、腰部の傾き・ズレの測定し関連性を調査しました。う蝕があると体の歪みが生じやすい、咬合異常は肩部の傾きに影響を及ぼしやすい、口呼吸は腰の歪みに影響を及ぼしやすい傾向にあることが示唆されました。歯科と整骨院との提携は、患者への包括的なケアに繋がり、歯科医療従事者、柔道整復師、患者にとって非常にメリットがあると強調されました。

特別報告として、北海道子供の歯を守る会とのコラボ企画「札幌市フッ化物洗口事業に関する報告」と題し、山口撰崇（札幌市保健福祉局ウェルネス推進部ウェルネス推進課）先生にご発表いただきました。令和5年度より開始した「保育所幼稚園等フッ化物洗口支援事業」（札幌歯科医師会への委託事業）の説明、現在37施設にてフッ化物洗口が実施されているとの報告がありました。なお、本事業を推進するため、北海道口腔保健学会が作成したフッ化物洗口に関する説明用スライド集を札幌歯科医師会所属の嘱託歯科医師へ提供する等の取組も行っております。令和6年度より開始した「札幌市立小学校におけるフッ化物洗口モデル事業」は、フッ化物洗口事業の全校実施に向けた効果的かつ効率的な実施方法を検証するもので、市内モデル校4校にて3年実施していくことが報告されました。

一般口演は5演題あり、いずれも興味深く活発な質疑応答がみられました。タイムスケジュール的にタイトではありましたが、非常に充実した大会となりました。





令和6年10月26日、新潟市において、甲信越北陸口腔保健研究会 学術大会を開催いたしましたので報告します。

本大会は当初、石川県歯科医師会主催で予定されていましたが、能登半島地震のために開催が困難となり、新潟で開催することとなりました。能登地方におかれましては、9月の豪雨など度重なる災害により、お亡くなりになられた方々に心からお悔やみ申し上げますとともに、被災されたすべての方々にお見舞い申し上げます。

さて、学術大会では、まず特別講演として、田中 彰教授（日本歯科大学新潟生命歯学部口腔外科学講座）より、「地域医療構想に連動した地域歯科保健医療提供体制の在り方～病院歯科の機能分化と求められる地域連携について～」と題してお話をいただきました。この度、

- ・近年、歯科医師の高齢化や地域偏在の問題が顕在化しており、今後、とくに地方においては歯科医師が激減し、一般診療や歯科保健事業が困難な地域が出てくると危惧されること
 - ・また、地域医療構想に基づき全国各地で病院の統廃合や機能分化が進み、それに合わせ病院歯科の役割も変わっていくと考えられ、歯科医師偏在の課題も踏まえ、各地で医療提供体制の検討が必要なこと
- といった背景を踏まえ、さまざまな立場の方が関係するテーマとして設定いたしました。

田中教授は、新潟県の県央医療圏において、地域医療構想に基づく急性期基幹病院の開院に伴う医療再編の中で、病院歯科の機能分化や地域歯科医師会との連携体制の構築にご尽力されました。この実績を踏まえ、今後果たすべき役割として、口腔外科診療をメインに担う病院歯科だけでなく、病院自体の機能や地域の求めに応じて、訪問歯科診療や障害者診療、およびその後方支援拠点や、退院時に地域につなぐ仕組みづくりを担う病院歯科の必要性などを話されました。当日会場には、被災地の石川県歯科医師会から宮田理事をはじめ3名の先生がご出席くださり、質疑応答では、奥能登地方には病院歯科がなく、いまだ歯科診療所の再開も極々一部である現状を話されました。これに対し田中教授からは、地域における最後の砦としての病院歯科の役割も今後重要になってくるとのコメントをいただきました。また後日、県歯科医師会関係者から、今回の講演内容で、全会員向けの研修会を開催したいとお話もいただき、大変ありがたく思っています。



特別講演の後行われた口演発表においても、フロアからの助言により、当初の発表内容にない新たな解釈、価値が示唆されるなど、活発な質疑、議論が交わされました。最後に一般演題のうち2題に発表奨励賞が贈呈され、学術大会は閉会となりました。

おわりに、県外から遠路お越しいただいた方々を始め、この度の学術大会にご出席くださったすべての皆様に感謝申し上げますとともに、不慣れな大会長を支えてくださった新潟大学の小川祐司幹事長をはじめ関係各位に感謝申し上げます。

第35回 近畿中国四国口腔衛生学会・ 第27回 近畿北陸歯科医療管理学会 併催学会開催報告

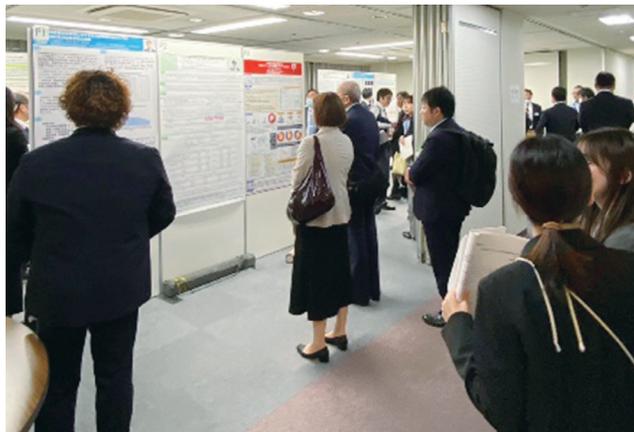
青木久美子（奈良県歯科医師会 地域保健担当理事）



第35回近畿中国四国口腔衛生学会は第27回近畿北陸歯科医療管理学会との共催学会として2024年9月29日（日）奈良県歯科医師会館にて開催させていただきました。大会長には（一社）奈良県歯科医師会会長末瀬一彦が務め、準備委員長には大阪大学大学院歯学研究科予防歯科学講座の竹内洋輝先生と奈良県歯科医師会理事青木久美子が務めさせていただきました。共催学会として164名の方にご参加いただき、盛会に開催できましたことを心より厚く御礼申し上げます。まだまだ暑さの残る奈良での開催ではありましたが、限られた時間のなかで古都奈良の観光も楽しんでいただけたのではないかと拝察いたします。

「医療DXによる歯科医療の推進」を大会テーマとし、メイン会場では4つの講演を企画しました。基調講演として末瀬一彦会長より「デジタルデンティストリーの現状」として医療情報および機器のデジタル化の現状をお話いただき、特別講演Ⅰとして前厚生労働省医政局歯科保健課長の小椋正之先生より「医療DX～国の動向～」と題し、国の医療分野でのDX推進の過程を、特別講演Ⅱとして日本歯科医療管理学会理事長の尾崎哲則先生より「青年期の歯科保健行動についてインターネットで調査してみると」と題し、令和4年度の東京都青年期実態調査内の歯科保健に関する結果について、特別講演Ⅲとして日本歯科医師会日本歯科総合研究機構の恒石美登里先生より「歯科におけるNDB活用と医療DXの課題」と題し、NDBデータにおいて見えてきたエビデンスとDXが進む中どのようにデータを集積、活用していくかについてお話いただきました。講演終了後の質疑応答も活発に行われ、今回のテーマの関心の深さがうかがわれました。また一般演題として24演題のポスター討論が行われ、それぞれのポスターの前では活発な議論が交わされました。

不手際も多々あったことと存じますが、多数の皆様にご参加いただき、企画に沿った有意義な共催学会が開催できましたことに心より御礼申し上げます。また、準備にあたり多大なるご指導をいただきました大阪大学久保庭雅恵教授、教室員の先生方、ならびに近畿中国四国口腔衛生学会事務局の岡山大学江國大輔教授、丸山貴之先生、歯科医療管理学会の関係者の皆様、そして奈良県歯科医師会地域保健委員会他委員、事務局の皆様方に心より感謝申し上げます。





日本口腔衛生学会会員の皆様には、益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

2024年9月8日（日）に、第46回九州口腔衛生学会学術大会が鹿児島の地で開催され、鹿児島県歯科医師会の後援のもと、鹿児島大学がそのお世話をさせていただきました。

今回の学術大会のテーマは「健口社会の実現に向けて」とし、口腔の健康から全身の健康へと繋ぐ架け橋と成るべく、生涯に渡る健口への取り組みを考える一助となればと思ひ企画させていただきました。なお抄録集の表紙には「健口社会の実現に向けて」をメインテーマに、生成AIで作成した図を用いました。現時点では細かいところに色々指摘すべき点もありましたが、今後は生成AIの精度も上がっていくと思われまふ。われわれも時代の流れに取り残されることなく、常にアップデートをしながら健口社会の実現に向けて邁進していけたらと考えております。

そこで2題の基調講演を企画させていただきました。基調講演①として、「唾液成分の健康への関わり」と題して、鹿児島大学名誉教授の於保孝彦先生にご講演いただきました。感染防御の観点から、これまで微生物の凝集・付着に関わる唾液成分についての研究が行われてきました。その中でもう蝕細菌を凝集するタンパク質として精製された唾液凝集素について着目し、そのさまざまな機能や口腔および全身における健康への関与について解説していただきました。また基調講演②として、「歯科保健医療に関する最近の動向」と題して、前厚生労働省医政局歯科保健課長の小椋正之先生にご講演いただきました。生涯を通じた歯科健診、いわゆる国民皆歯科健診として「就労世代の歯科健康診査等推進事業」と「歯周病等スクリーニングツール開発支援事業」の2つの事業について、また医療分野でのデジタルトランスフォーメーション（DX）を通じて国民の保健医療の向上を図るとともに、最適な医療を実現するための基盤整備の推進に関する最新の動向について、分かりやすく概説していただきました。

その他、九州圏内の各大学や歯科医師会の先生方から、午前中には7題の口頭発表が行われ、活発な討論が展開されました。午後には8題のポスター発表とディスカッションを実施し、さまざまな意見交換が行われました。また口演とポスター発表から各一題ずつ最優秀演題賞を選び、閉会式の時に表彰を行いました。

最後になりましたが、本会に参加された皆様におかれましてはなかなか行き届かない点もあったかとは思いますが、有益なものでありましたなら幸いです。また開催に際し、ご協力・ご支援を賜りました鹿児島県歯科医師会の先生方、ならびに関係各位の皆様にご感謝申し上げます。限られた予算の中ではありましたが、何事もなく無事に終わられたことを喜ばしく光榮に思います。



新任教授紹介



小椋正之（日本大学松戸歯学部歯科医療管理学講座）

日本大学松戸歯学部歯科医療管理学講座は令和6年10月1日に新しく設置された講座であり、その初代教授として、私、小椋正之が同日付で着任いたしました。私は平成6年に長崎大学を卒業し、平成7年に国立公衆衛生院（現在の国立保健医療科学院）でMaster of Public Healthを取得し、平成10年に岡山大学大学院歯学研究科で学位を取得し、その年に厚生省（現在の厚生労働省）に入省しました。厚生労働省では、富山県庁や大阪の近畿厚生局へ出向したりしつつ、平成28年4月から保険局の歯科医療管理官として、令和3年7月から令和6年6月末まで医政局の歯科保健課長として、合計26年3か月の間、厚生労働省で医系技官として勤務してきました。

厚生省で働き始めたばかりの頃、医系技官の先輩から「行政官として働くには、アカ抜けることが必要」と言われたのを今でも覚えています。この際の「アカ」は「アカデミック」のことで、行政は学問や正論だけの世界ではなく、無理が通れば道理引っ込むようなことも多く、清濁併せ呑む度量の広さが必要であるという意味であると私は理解しました。確かに、医系技官として行政で働いてみると、今まで学んできた多変量解析や有意差等は殆ど関係なく、政治をはじめとした地域や社会の中でのさまざまなパワーバランスを踏まえたうえで、行政は成り立っていることがわかりました。

今回、私が着任した歯科医療管理学講座は、地域や社会の中での歯科保健医療のあり方を考察していく学問であると言えるでしょう。私が今まで厚生労働省の医系技官として培ってきた知識や経験を活かしつつ、地域や社会の中での歯科保健医療のあり方について検証して、その結果が口腔衛生学会、歯科医療管理学会や日本大学松戸歯学部はもちろんのこととして、日本の歯科界へ少しでも貢献できたらと考えています。とは言え、今までの業務とは大きく異なり、学会や大学等については右も左も殆どわかっていない素人ですので、皆様方、今後ともご指導ご鞭撻のほどをどうかよろしくお願いいたします。

若手会員紹介リレー⑦



佐藤美寿々（北海道大学大学院歯学研究院予防歯科学教室）

→皆川久美子（新潟大学大学院医歯学総合研究科予防歯科学分野）

今回の若手紹介リレーは、北海道大学の佐藤美寿々が担当し、新潟大学大学院医歯学総合研究科予防歯科学分野の皆川久美子先生を紹介させていただきます。皆川先生は新潟大学歯学部時代からの同期で、今も同じ分野で活躍されている心強い存在です。

皆川先生は、新潟大学大学院時代から新潟県新潟市および三条市におけるフッ化物洗口事業に携わり、保育園や小学校などでのう蝕予防支援活動を精力的に展開してこられました。また、自身の居住地でもある加茂市の小児う蝕が県内ワーストであることから、小学校でのフッ化物洗口事業導入に際し、地元歯科医師会・行政と連携し講演活動を行うなど、草の根での歯科保健向上に貢献されています。

研究面では、新潟大学代謝内科に通院中の糖尿病患者を対象とした臨床研究をメインテーマとされています。最近では、2型糖尿病患者における局所的な抗生物質による歯周治療が、軽度認知障害（MCI）のリスクに関連する血液中のバイオマーカーに与える影響を明らかにした指導論文がEuropean Journal of Dentistryにて受理されています。加えて、研究活動で培われた知見およびネットワークを活かし、糖尿病を有する患者・市民教育にも熱心に取り組まれています。大学病院での生活習慣病教室において、糖尿病の入院患者を対象とし、歯周病と糖尿病との関連についての教育活動を定期的に行われているほか、毎年11月の世界糖尿病デー（World Diabetes Day）に合わせた市民イベントにも新潟大学予防歯科の代表として参加されるなど、研究成果の社会実装を見据えた活動を積極的に展開されています。

このように、研究から臨床実践、そして社会貢献まで、幅広い視野を持って歯科保健医療の発展に尽力されている皆川先生に、次のバトンをお渡しさせていただきます。皆川先生、どうぞよろしくお願いたします！

九州大学大学院歯学研究院口腔予防医学分野の紹介

竹下 徹（九州大学大学院歯学研究院口腔保健推進学講座口腔予防医学分野）

本分野のこれまで

九州大学大学院歯学研究院口腔予防医学分野は九州大学歯学部に1973年に開設された予防歯科学講座を源流とする研究室であり、2000年の大学院重点化による組織の改組の際に予防歯科学講座と口腔細菌学講座が母体となって設置された口腔予防科学分野、口腔環境保健学分野、口腔感染免疫学分野の3研究分野を2009年に統合する形で創設されました。2023年4月に筆者である竹下徹が第4代の教授を拝命し、山下喜久前教授からスタッフおよび研究方針を継承して運営にあたっています。

現在口腔予防医学分野には教授1名（竹下徹）、准教授2名（古田美智子、影山伸哉）、助教3名（朝川美加李、馬佳楽、澤田ななみ）の計6名の教員が所属しています。加えて社会人大学院生5名を含む11名の大学院生が在籍しており、2名の学部生とともに研究や地域保健活動に取り組んでいます。

1. 教育

口腔予防医学分野は学部教育においては基礎系講座として口腔保健学・環境衛生学と口腔微生物学の教育を担当しています。口腔保健学・環境衛生学では社会歯科・口腔衛生学分野と歯科医療統計学分野に該当する内容を4年次の春学期（口腔保健学）と夏学期（環境衛生学）に分け、口腔衛生学及び衛生学に関する実習を交えながら指導しています。口腔微生物学については2年次の秋・冬学期に微生物学、免疫学、感染症学に関する講義と微生物の取り扱いに関する実習を行っています。その他、1年生に今後行われる教育内容の全体像を説明する歯学概論、4年生に少人数で1年間の研究指導を行うリサーチエクスポージャーといった取り組みや6年次の歯学総論なども担当しています。

2. 研究

本分野は歯科健診を基盤とした疫学調査・臨床研究を軸に研究を進めています。これまで福岡県糟屋郡久山町の住民を対象に行われているコホート研究への参加をはじめ、乳幼児や小学生、高齢者、歯科医院や病院の患者といったさまざまな集団を対象に調査を行ってきました。歯科医師が取得する口腔の健康状態に関する詳細な情報をもとに新たな歯科保健手法の確立や全身の健康状態との関連の解明を目指しています。

本分野の研究のもう一つの特色は口腔常在微生物叢の制御を目指す取り組みです。本分野はDNAの塩基配列分析に基づく微生物群集解析法に早くから着目し、ハイスループットで網羅的な口腔常在微生物叢解析系の構築を進めてきました。上記疫学調査で取得した唾液・舌苔・歯垢といった口腔由来検体の微生物構成を決定し、健診で得た情報を重ねることで健康状態に関わる微生物構成パターンの特定を進めています。こうした研究で得た成果を口腔常在微生物叢の制御に基づくこれまでなかった健康増進アプローチの開発に繋がればと考えています。

3. 地域保健活動

疫学調査をさせていただいている福岡市や久山町といった地域において歯科健診や歯科保健教育を通じて地域の人々の健康増進に貢献することも本分野の責務の一つです。本分野で学んだ行政歯科医師も増えてきましたのでこうした先生方とも連携しながら地域歯科保健に関わるとともに、将来的には口腔常在微生物叢をはじめとする研究成果の地域保健への活用を目指しています。



写真1. 集合写真

前列が教員（左から澤田、古田、竹下、影山、朝川、馬）、後列が大学院生のうち6名

各種お知らせ

各種事業などについてご案内申し上げます。
詳細は、学会誌第75巻第1号をご参照ください。

学会認定医申請・更新（2025年度分）について

学会員の皆様で資格のあると思われる方は、一般財団法人日本口腔衛生学会認定医制度規則・細則を参照のうえ、ふるって申請してください（申請期限：新規・更新ともに9月30日（火）まで（消印有効））

学会専門医申請（2025年度分）について

資格を満たすと思われる方は、一般財団法人日本口腔衛生学会専門医制度規則・細則を参照のうえ、ふるって申請してください（申請期限：9月30日（火）まで（消印有効））

学会指導医申請（2025年度分）について

資格を満たすと思われる方は、一般財団法人日本口腔衛生学会指導医制度規則・細則を参照のうえ、ふるって申請してください（申請期限：9月30日（火）まで（消印有効））

学会認定地域口腔保健実践者の申請（2025年度分）について

学会員の皆様で資格のあると思われる方は、一般財団法人日本口腔衛生学会指導医制度規則・細則を参照のうえ、ふるって申請してください（申請期限：9月30日（火）まで（消印有効））

認定歯科衛生士専門審査制度の申請・更新（2025年度分）について

学会員の皆様で資格のあると思われる方は、一般財団法人日本口腔衛生学会指導医制度規則・細則を参照のうえ、ふるって申請してください（申請期限：新規・更新ともに9月30日（火）まで（消印有効））

歯科衛生士委員会企画シンポジウム開催について

日 時：未定
場 所：朱鷺メッセ 新潟コンベンションセンター
内 容：「認定歯科衛生士を取得しよう！」
演 者：野口有紀, 石黒梓, 佐久間愛

第30回一般社団法人日本口腔衛生学会認定研修会

日 時：2025年5月16日（金）15:00～17:00
場 所：朱鷺メッセ 新潟コンベンションセンター A会場（4F マリンホール）
内 容：1. 認定制度新規申請・更新上の注意
2. 「認知症の発症・進行予防を目指す攻めの歯科医療」講師：道川誠
3. 「未定」講師：小椋正之

第17回一般社団法人日本口腔衛生学会指導医研修会

日 時：未定
場 所：朱鷺メッセ 新潟コンベンションセンター
内 容：1. 「指導医に期待すること」講師：山本龍生
2. 認定医・専門医・指導医制度について（仮）講師：嶋崎義浩

編集後記 広報委員会より

NL 12号は、泉福英信、吉岡昌美および吉野浩一が担当致しました。発行が12月ということもあり、地方会の活動により焦点をあてました。依頼した先生方は、原稿の執筆を快く引き受けていただいてNLをスムーズに仕上げることが出来ました。この場を借りて御礼申し上げます。